

## 取組実績の概要（2 ページ以内）

## 学修成果指標の開発

## ■学修成果指標の策定（平成27年度）

## ・共愛12の力

ディプロマ・ポリシーに基づき、本学学生が身につけるべき力を4軸12の力に整理

## ・共愛コモンプリック

12の力それぞれの達成度を評価するためのルーブリックを作成（レベル1から4までの4段階で評価）

## ■シラバスにおける明示（平成29年度～）

各科目で、身につけるべき力、伸長が期待できる力（共愛12の力）を、シラバス上にて教員が選択し表示

## 【共愛12の力】

4つの軸	12の力
識見	共生のための知識
	共生のための態度
	グローバル・マインド
自律する力	自己を理解する力
	自己を制御する力
	主体性
コミュニケーション力	伝え合う力
	協働する力
	関係を構築する力
問題に対応する力	分析し、思考する力
	構想し、実行する力
	実践的スキル

## 【必須指標の達成度 R1 年度達成指標は太字】

指標	単位	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		実績	目標	実績
(A)AL を導入した授業科目数の割合 〔%(導入科目数/総科目数)〕	割合	56%	80%	<b>89%</b>
(B)AL 科目のうち、必修科目数の割合 〔%(必修数/AL 数)〕	割合	3%	3%	2%
(C)AL を受講する学生の割合 〔%(受講数/在籍者数)〕	割合	92%	93%	<b>95%</b>
(D)学生 1 人当たり AL 科目受講数 〔科目(受講延べ人数/在籍者数)〕	科目数	10	14	<b>14</b>
(E)AL を行う専任教員数 〔%(実施教員数/総教員数)〕	人数	100%	100%	<b>100%</b>
(F)学生 1 人当たりの AL 科目に関する 授業外学修時間	時間数(週)	5	12	10
(G)退学率 ※除籍含む 〔%(退学者/在籍者数)〕	割合	3%	2%	<b>2%</b>
(H)プレースメントテストの実施率 〔%(実施者/入学者数)〕	割合	98%	99%	<b>99%</b>
(I)授業満足度アンケートを実施している 学生の割合 〔%(学生数/在籍者数)〕	割合	98%	99%	<b>99%</b>
(J)上記アンケートにおける授業満足率	割合	88%	88%	<b>90%</b>
(K)学修行動調査の実施率 〔%(学生数/在籍者数)〕	割合	83%	76%	<b>90%</b>
(L)学修到達度調査の実施率 〔%(学生数/在籍者数)〕	割合	78%	73%	<b>87%</b>
(M)学生の授業外学修時間	時間数(週)	8.8	15	<b>15</b>
(N)学生の主な就職先への調査	実施有無	有	有	<b>有</b>

※AL:アクティブ・ラーニング

(テーマ: I・II複合型、大学等名: 共愛学園前橋国際大学)

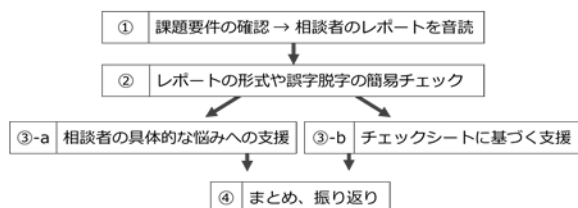
## アクティブ・ラーニングの拡充

### ■ライティング支援制度「ラピタデスク (Library Peer Tutor Desk)」 (平成27年度~)

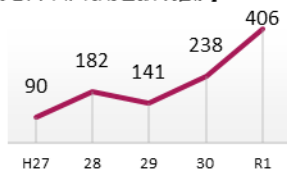
教員推薦による学部3,4年生が専用の研修の受講後にチューターとなり、主に1年生のレポート執筆を支援する制度。令和元年度からは上級生が新チューターへの研修を実施する。運営を含め学生主体の体制に移行している



【ラピタデスク運用フロー】

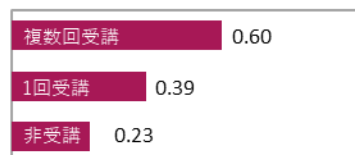


【ラピタデスク利用者数の推移】



利用者のほとんどが1年生  
令和元年度は1人2回以上利用している

【1年生のレポート執筆に関する知識量の変化】



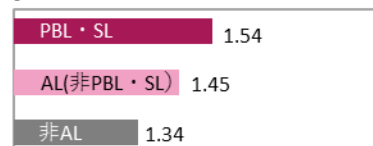
ラピタデスクを複数受講した学生は、確実に正確な知識を増やしている

## 学修成果の可視化

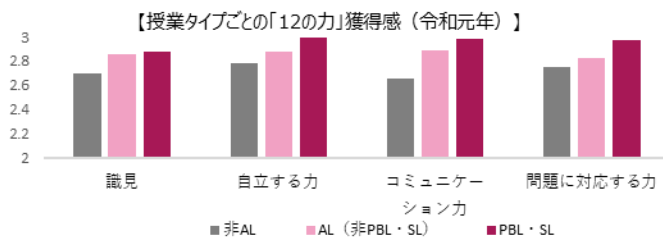
### ■学修成果指標(共愛12の力)に基づくカリキュラム検証と改善

平成27年度よりAPに特化した授業アンケートを各科目最終回に実施。このアンケートでは当該授業における「共愛12の力」の獲得感、授業外学修時間を調査。各科目の個別データを全教員にフィードバックし、授業改善の資料としている。なお、AL授業数割合は56%→89%となった

【授業タイプごとの授業外学修時間(令和元年)】

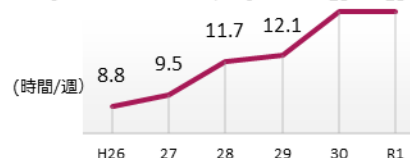


AL型の授業では、学生の授業外学修時間が長く、更にPBL・SLでは特に長い



AL型の授業では、「12の力」の獲得感が高い。特に「強調する」話す等のコミュニケーション力の獲得感に講義型授業と大きな差がある。ALが期待される効果を上げている

【授業外学修時間の推移】

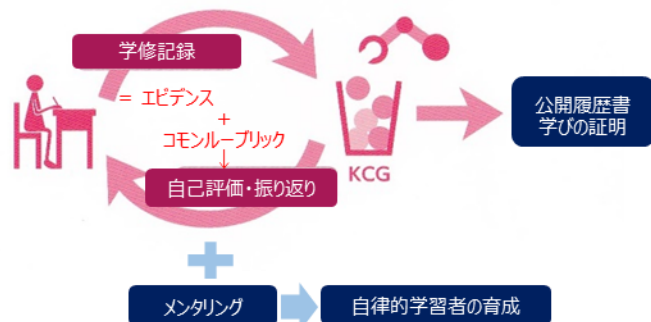


AP事業開始以降、順調に伸び、目標(週あたり15時間)を達成した

※外部評価としては、PROG(H27-30:河合塾),JUES(H27-R1:オーストラリア教育研究所),GPS-Academic(H30-R1:ベネッセiキャリア)を利用して測定

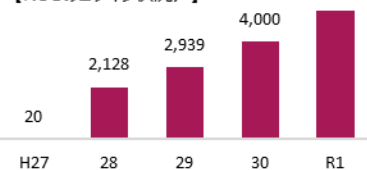
### ■eポートフォリオを用いたエビデンススペースの自己評価

学生は自身の学修記録をエビデンスとして、「共愛コモンルーブリック」に基づき「共愛12の力」の自己評価をeポートフォリオ(KYOAI Career Gate: KCG)上で実施する(平成27年度~)



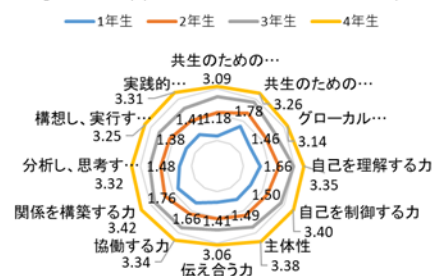
KCGを用いた自己評価システムの構築、運用、ショーケースの活用により、大学、教職員、学生、外部のステークホルダーなど、あらゆるレベルにおいて、学生の学びが可視化できるようになった

【KCGのログイン状況】



授業と連動した活用でアクセス数が着実に増加

【「12の力」自己評価(令和元年度卒業生の推移)】



学生は毎年成長感を持っている。1年次の12項目自己評価の平均値は1.51から卒業時には3.28となっている